

相馬港専用ふ頭が供用再開

オーストラリアからの石炭船が入港

相馬港5号ふ頭の相馬共同火力発電(株)新地発電所専用岸壁(5-1、5-2、5-3バース)が、2月8日に供用再開となり、専用ふ頭では震災後初となる石炭船が入港し、11ヶ月ぶりとなる石炭の荷揚げが行われました。

同発電所では、地震及び津波の影響により、5号ふ頭内の石炭を運搬するためのベルトコンベヤーや揚炭機4基のうち2基が倒壊するなど、甚大な被害を受けましたが、昨年12月に1・2号機が運転を再開しています。



▲供用再開した5-1バースに接岸する「白雲」

船舶情報

・船名:「白雲」 ・重量トン数:87,000DWT ・接岸場所:5-1バース ・積載貨物:石炭(63,000t)



▲揚炭機2基を用いた荷揚げ作業の様子

